

# 急性心筋梗塞患者における退院時抗血小板薬投与割合

## QI項目の解説

急性心筋梗塞は通常発症後2～3ヶ月以内に安定化し、大多数の患者は安定狭心症または安定した無症候性冠動脈疾患の経緯を辿ります。心筋梗塞後の長期予後を改善する目的で、抗血小板薬、ACE阻害薬あるいはアンジオテンシン受容体拮抗薬（ARB）、スタチンなどの投与が推奨されています。

本指標では、より高い値が望ましいとされています。

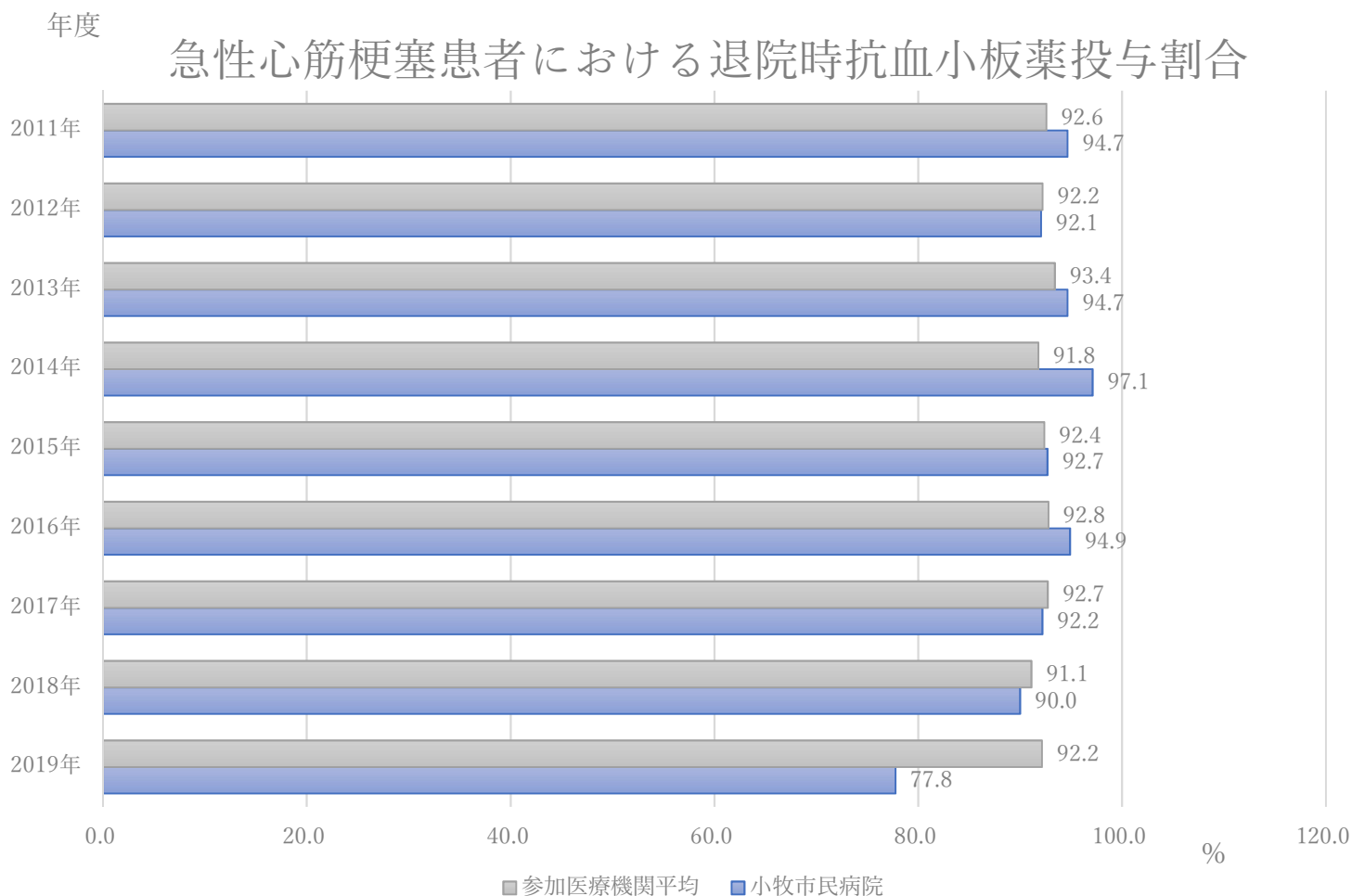
## 急性心筋梗塞患者における退院時抗血小板薬投与割合

### QI指標の定義・計測方法

分子:退院時に抗血小板薬が投与された患者数

分母:急性心筋梗塞で入院した患者数

×100 単位 (%)



## 2019 当院データと全施設平均値との比較・原因分析

当院の実績は 94.7%であり参加医療機関平均の 92.9%を上回っており、問題ないと判断します。

## 2019当院データと2018当院データとの比較・原因分析

当院の実績は 94.7%であり昨年の 92.1%を 2.5 ポイント上回っています。問題ないと判断します。

## 数値改善に向けた今後の取り組み

引き続き、抗血小板薬投与の重要性を若手循環器医師に教育していきます。

## 2018当院データ評価時の改善策の実施状況と評価

2019 年度の若手医師への教育が効を奏したと判断します。